

【第3回Arent調査③ BIM編】

建設業界のBIM活用、「活用できている」企業が4割に迫る

効果実感は「データ整合性」が増加も、導入後の「二重作業」「協力会社連携不足」が課題



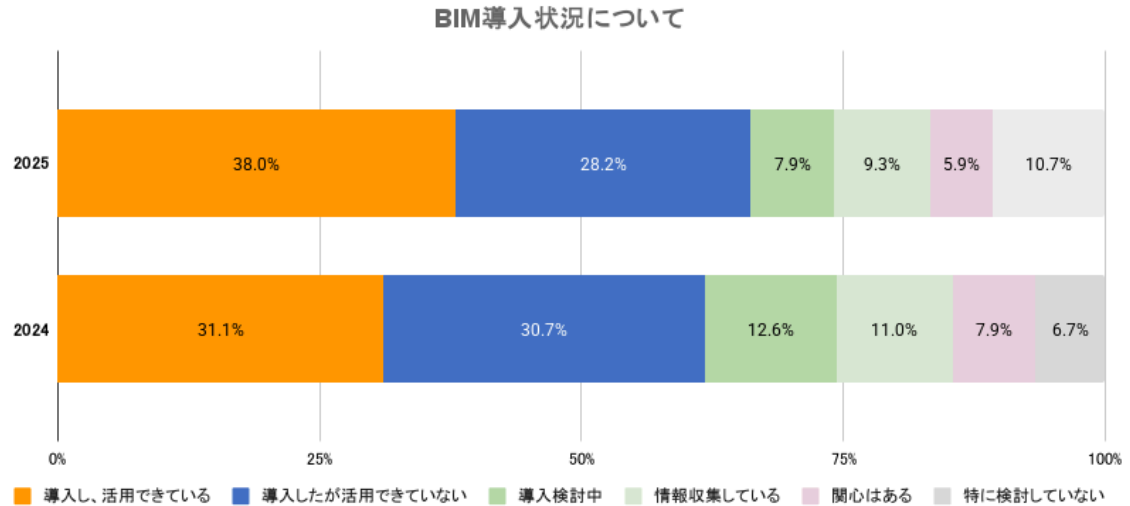
建設DXを推進する株式会社Arent（本社：東京都港区）は、2025年1月から12月にかけて建設業界従事者を対象に実施したBIM推進に関するアンケート調査の結果を発表しました。

本調査から、BIMの導入が進み、「導入し、活用できている」企業の割合が4割に迫る勢いで増加していることが確認されました。BIM導入のメリットとして、「3Dでの可視化」に加え、「データの整合性」など実務効果を実感する声が増えています。

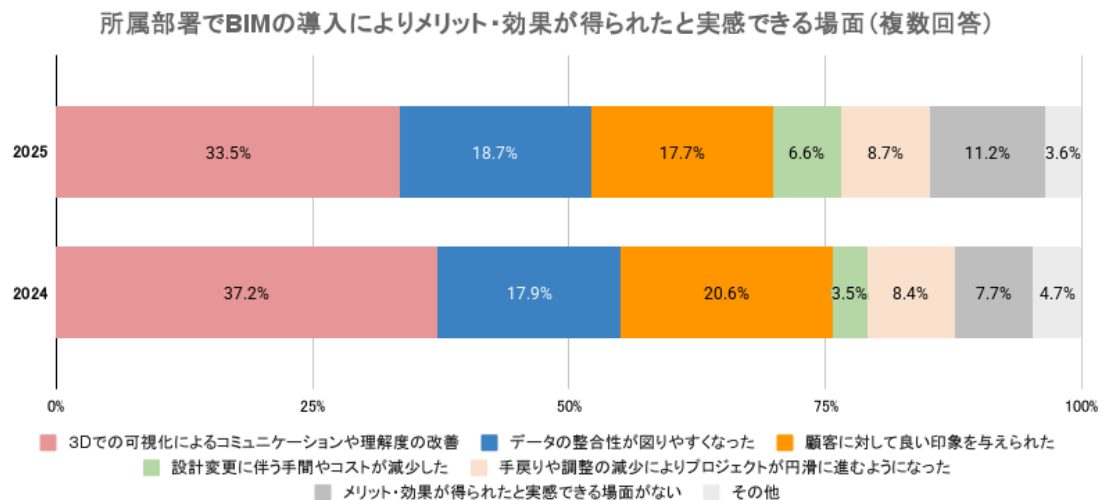
一方で、導入後の課題として「二重作業」の発生や「協力会社との連携不足」が依然として高く、最大の懸念として「人材不足」が挙げられており、普及に伴う新たな課題が顕在化しています。

主要な調査結果

- **BIMの導入状況：「導入し、活用できている」が約4割に迫り着実に増加**
「導入し、活用できている」企業の割合は、2024年の31.1%から2025年には38.0%へと6.9ポイント増加。BIMが建設業界で着実に浸透し、活用フェーズに進んでいることが見て取れます。

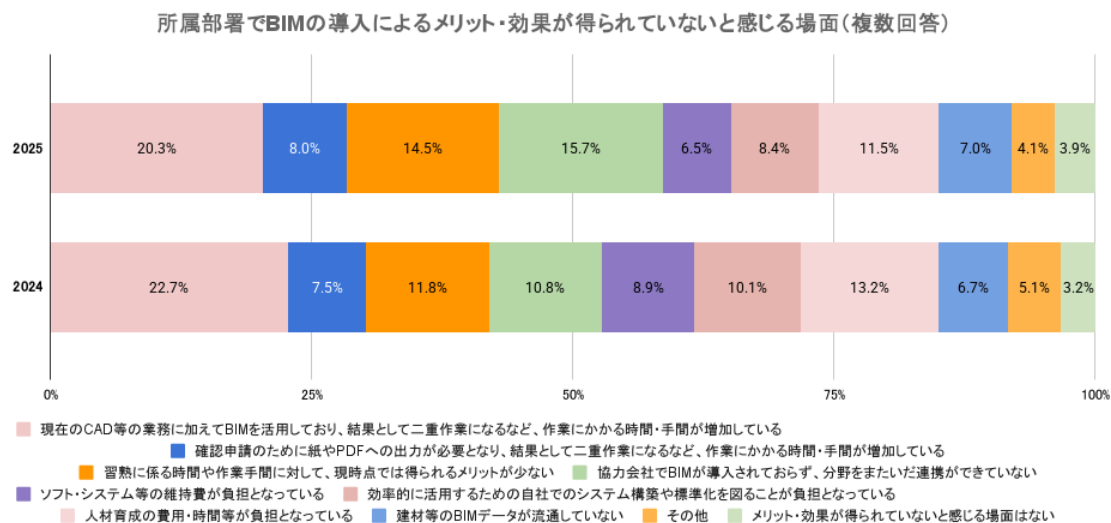


- **メリット・効果実感：「3Dでの可視化」がトップも、「データの整合性」の増加が顕著**
メリット・効果が得られたと実感できる場面では、「3Dでの可視化」が33.5%で最も高い割合を占める一方、「データの整合性が図りやすくなった」が2024年の17.9%から18.7%へと増加。BIMが設計・施工プロセスにおけるデータの統一と活用に貢献し始めていることが伺えます。



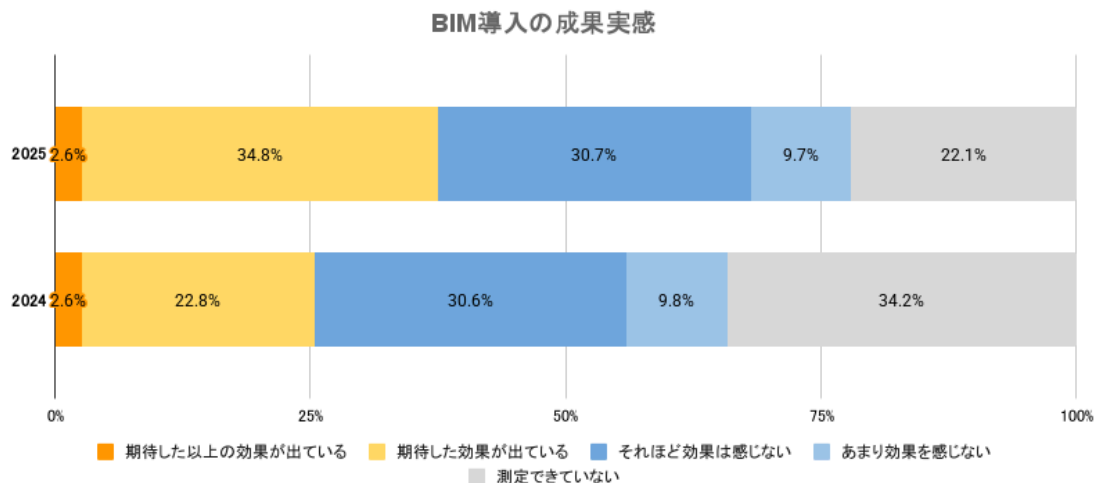
- **メリット・効果が得られていない場面：「二重作業」「協力会社連携不足」が大きな障壁**

効果が得られていないと感じる場面として、「現在の業務に加えBIMを活用し、結果として二重作業になる」（20.3%）が最多。次いで「協力会社でBIMが導入されておらず、分野をまたいだ連携ができていない」（15.7%）が続く。既存ワークフローとの兼ね合いやサプライチェーン全体での連携が課題となっています。



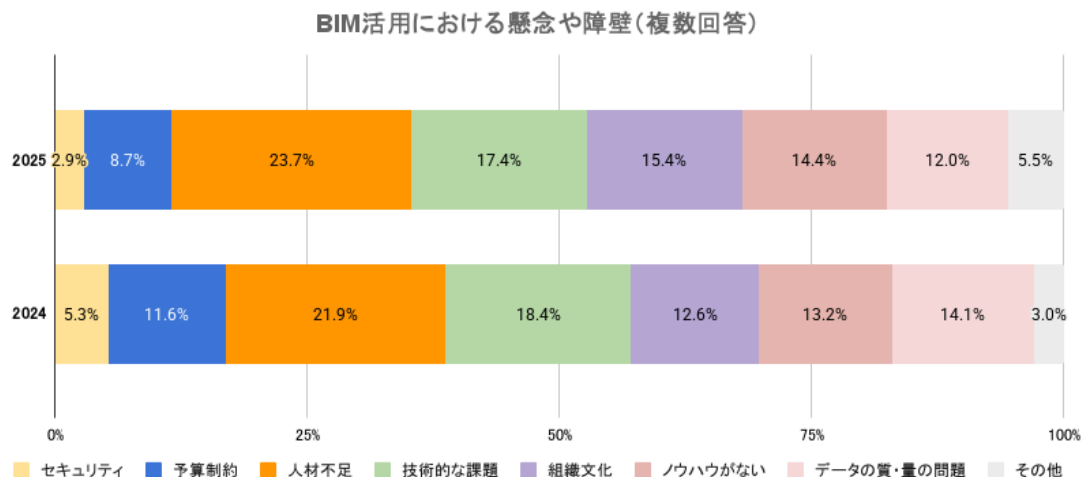
- **BIM導入効果の実感：「期待した効果が出ている」が大幅に増加**

BIM導入企業のうち、「期待した効果が出ている」という回答は22.8%から34.8%へと大幅に増加。導入企業の37.4%が期待通りの、またはそれ以上の効果を実感しており、BIM活用が着実に成果を生み出し始めている様子がうかがえます。



- 最大の懸念・障壁は「人材不足」がトップ

BIM活用における懸念や障壁として最も多く挙げられたのは、「人材不足」（23.7%）で、前年調査（21.9%）よりも増加。BIMの普及に伴い、それを扱える専門人材の育成・確保が喫緊の課題となっています。



調査結果

▼前年の調査結果を含めて以下でもご覧いただけます

<https://note.com/arent3d/m/m0343cb8037ed>

調査概要

調査実施者: 株式会社Arent

調査方法: イベント現地でのアンケート

調査対象: 建設業界従事者

有効回答数: 411件

調査時期: 2025年1月～2025年12月

＜本件に関するお問合せ＞

info@arent3d.com

以上